

無料 (ご自由にお持ち帰り下さい)

編集・発行／茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター

茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター

〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121

ホームページ <https://www.hospital.pref.ibaraki.jp/chuo/>

2023年
Vol.49

ほっとタイムズ

特集 がん相談支援センターについてご紹介します

教えてドクターQ&A

知っておきたい「子宮頸がん」のこと



がん相談支援センター スタッフ

ドクター紹介 8

消化器外科 部長 星川真有美

放射線診断科・IVR 医長 榎戸 翠

地域連携だより 各診療科のご紹介 9

消化器外科

当院で活躍する認定看護師 8

感染管理認定看護師 宮川 尚美

病院長メッセージ

「急増するロボット支援手術」 10



がん相談支援センターについて ご紹介します



看護師長 うえだ まゆみ 上田真由美

【遺伝看護専門看護師、がん化学療法看護認定看護師】

当院では看護師3名、医療ソーシャルワーカー1名、事務1名の計5名のスタッフが、がんに関するさまざまな悩みや不安に対応しています。わからないことや困ったことがありましたら、お気軽にご相談ください。お力になれるよう精一杯努めます。

がん相談支援センターとは

全国のがん診療連携拠点病院などに設置されている、がんに関する相談窓口です。国が指定した研修を修了した看護師やソーシャルワーカー、臨床心理士が対応しています。

患者さんやご家族の困りごとや悩みを一緒に考え、サポートします

治療の有無にかかわらず、どのようなタイミングでも、誰のことも、がん相談支援センターがある病院に通っていないなくても、がんに関するさまざまなことを相談することができる場所です。「今の気持ちを聞いてほしい」「不安でどうしていいかわからない」といったときにもご相談ください。一緒に情報を整理し、不安を軽減できるようサポートします。また、院内には、がんのことに精通したたくさんの専門家がいます。専門家と連携し、チームでサポートをするための窓口の役割もしています。

がんに関するさまざまな情報提供をおこなっています

国立がん研究センターがん情報サービスが発行している各種がんの冊子を無料で閲覧、提供しています。^{えつらん}がん相談支援センターの前には、がんの基本的知識や治療のことから、在宅療養のことなど知りたい情報にたどりつくことができるために、豊富な資料をそろえています。また、情報は、根拠があり、信頼のできる内容を選択して設置しています。

【提供している情報】

- 医療費や社会福祉制度
- 介護保険
- 治療の副作用
- 在宅療養
- 食事や栄養
- 訪問看護や訪問診療
- アピアランス（容姿）
- 仕事や学校
- がんゲノム医療
- 遺伝・妊孕性温存療法^{（※）}

※妊孕性とは…妊娠するための力



がん相談員として心がけていること

患者さんやそのご家族が、どのようなことに戸惑い、悩んでいるのか、どのような情報を求めているのかに応えられるように、じっくりと対話することを心掛けています。がんと向き合う患者さんやそのご家族が一番大切にしたいことを尊重し、かつ、納得した選択ができることを支持しています。

「知ろう、一緒に。」AYA世代のがん患者さんを支援します！

AYA世代とは、Adolescents and Young adults（思春期・若年成人）の頭文字をとったもので、15歳から39歳までの世代のことです。

この世代のがん患者さんは、多くの診療科にまたがる多様ながん種であることを特徴とします。進学や就労、結婚や妊娠、子育てなどたくさんの悩みを抱えながら治療に向き合っている方々に寄り添い、力になりたいと考えています。がん相談支援センターでは、この世代の患者さんのことをもっと知ってもらうことを目的に、「AYAがんの医療と支援のありかた研究会」が主催するAYA week2023イベントに参加し、応援フラッグを作成した啓発活動をおこないました。フラッグには院内のさまざまな職種からのメッセージが届きました。



応援フラッグ

私たち相談員は幅広い活動をしています

●いばらきのがんサポートブックの作成

「がん」と診断されたみなさまやそのご家族のこれからの治療や療養生活に役立つ情報をまとめた冊子があります。茨城県内のがん診療連携拠点病院やがん相談支援センターのご案内、よりよい療養生活を送るための社会制度やサポート情報が載っています。

院内各所に様々な情報とともに設置しています。ぜひ、手に取っていただき、ご活用ください。



●PR活動

院内外を問わず多くの人に、相談場所があることを知ってもらうために、行政と連携し地域でPR活動を行っています。



各種相談窓口

ピアサポート相談（かさま窓口）

がんの体験者同士で話ができる場として、ピアサポート相談窓口を開催しています。

かさま窓口には、茨城県が実施した「ピアサポーター養成研修修了証書」の交付を受けたピアサポーターが約10名登録しています。

開催日には2名のピアサポーターが、相談者の不安に寄り添い、仲間として様々な悩みを伺います。

【開催日】第2・4金曜日

13:00～/13:30～/14:00～/14:30～



仕事に関する相談窓口

「病気になっても働きたい」そんなお気持ちを応援し、サポートしています。

就労相談

社会保険労務士が、治療と仕事の両立を手助けします。

【開催日】第4水曜日

13:00～/14:00～/15:00～

ハローワーク水戸出張相談

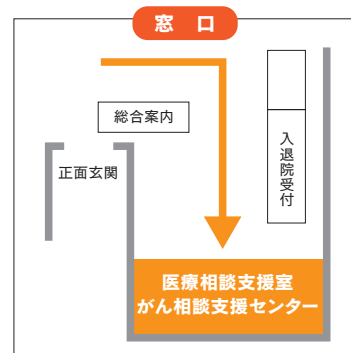
就職支援ナビゲーターが、就職を支援します。

【開催日】第3木曜日

10:00～/11:00～/12:00～



- ＊ご相談は無料です。
- ＊ご予約の方が優先となりますので、がん相談支援センターの窓口またはお電話でお問い合わせください。
- ＊開催場所：茨城県立中央病院 笠間市鯉淵6528
- ＊お問い合わせ：がん相談支援センター
TEL.0296-78-5420（直通）



Q がんと言われてどうしてよいかわかりません。

A がんは一人で闘うには大きすぎる病気です。不安や悩みは、家族や相談できる人に打ち明けましょう。がん相談支援センターではあなたの気持ちに耳を傾けます。気持ちが落ち着いてから今後のことについて一緒に考えていきましょう。

Q セカンドオピニオンを受けたいのですが…。

A セカンドオピニオンとは、主治医以外の専門医から診断・治療方針、その他の治療方法の確認とその根拠について聞くことです。主治医の紹介状と検査や画像データが必要です。聞きたいことを整理して臨みましょう。主治医との関係が悪くなることを心配されるかもしれませんが、セカンドオピニオンを聞くことは一般的なことで理解されていますので、希望があれば伝えましょう。なお、セカンドオピニオンには医療保険は適用されませんので、全額自己負担となります。

Q 主治医とうまく話し合えない、どうしたらよいですか？

A 主治医と相談できないというのはつらく悩み深い問題と感じます。ただ、がんと闘うことは、医療者の共通の想いです。そしてあなたの病気の情報を最も知っているのは主治医です。質問の仕方、タイミングを工夫する必要がありますが、『とにかく聞こう』と自分を励まして話し合ってみましょう。あなたの思いを主治医に伝えることから始めてみましょう。

Q 入院が決まりました。医療費が心配です。

A 治療内容、年齢により患者さんが負担する医療費は異なります。医療費が高額となる場合には、高額療養費制度が適応となります。なお、先進医療に係る費用は、医療の種類や病院により異なり、患者さんの全額自己負担となります。ただし、通常の治療と共有する部分（診察・検査・投薬・入院料等）の費用は保険適応になり、各健康保険制度における一部負担金を支払うこととなります。

Q 外来で化学療法を受けることになりました。抗がん剤は高いと聞いているので心配です。

A 近年は、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬等、かなり高額になるものもありますが、外来においても、高額療養費制度が対象となります。「高額療養費限度額適用認定証」を発行してもらい、保険証確認窓口にてご提示いただくと、限度額までのお支払いで済みます。申請先は、国民健康保険の窓口、社会保険（協会けんぽ、共済組合等）、勤務先の庶務担当等になります。

Q 治療のために会社を休まなければなりません。生活費の保障は何かありますか？

A 健康保険加入者本人が病気やけがのために仕事を休み、給料の支払いが受けられなくなったときは傷病手当金が支給されます。3日連続して休んだとき、4日目から支給が開始され、上限は1年6ヶ月、支給額は標準報酬月額額の3分の2です。申請先は、社会保険（協会けんぽ、共済組合等）、勤務先の庶務担当等になります。

Q 積極的ながん治療がこれ以上難しい病状となり、在宅医療を勧められました。

A がんの病状により通院が難しくなってきた場合、お住まいの近くで在宅医療を行っている在宅医や訪問看護師へ、症状の緩和や点滴などの管理を依頼することができます。ケアマネジャーとも連携し、日常生活に必要な介護ベッドや車いす等を入れたり、訪問入浴サービス等を利用することも可能です。患者さんやご家族の希望を確認しながら、看取りも含めた環境を一緒に考えてまいります。

Q & A がん相談 Q&A



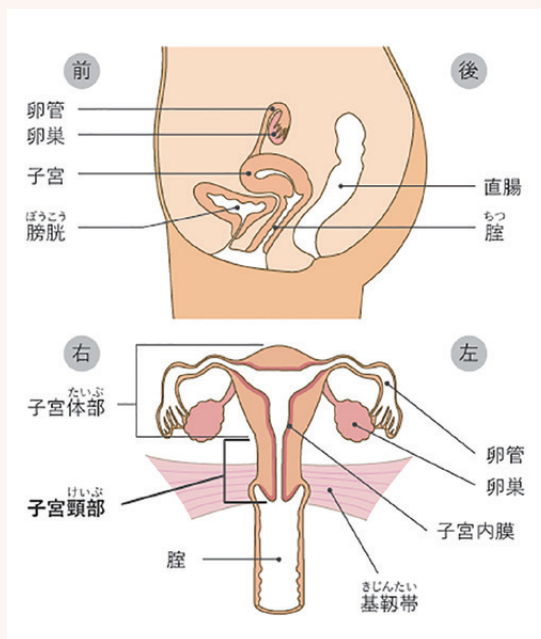
～子宮頸がんの予防にはHPVワクチン接種と
定期的な検診が大切です～

知っておきたい「子宮頸がん」のこと

女性特有のがんの一つである子宮頸がん。若い世代の女性に発症することが多いのが特徴です。女性の人生に大きな影響をおよぼすこともある子宮頸がんですが、子宮頸がんは悪性腫瘍の中でも自分で予防できる数少ないがんのひとつです。今と未来を大切にしたい選択をするために、ぜひ子宮頸がんについて知識を身につけましょう。

Q：「子宮頸がん」とはどんな病気ですか

A： 子宮頸がんとは、子宮の頸部（出口に近い部分）にできる悪性腫瘍のことを言います。大多数の子宮頸がんは性的接触によって子宮頸部にヒトパピローマウイルス（HPV）が感染することを引き金として発症します。



【子宮の構造と周囲の臓器】

出典：国立がん研究センターがん情報サービス

Q：「子宮頸がん」の症状にはどのようなものがありますか

A： 子宮頸がんはAYA世代といわれる15～39歳以降の女性で発症します。いわゆる成人病といわれるがんに比べて若いうちから発症することから、マザーキラーと呼ばれることもあります。もちろん、高齢女性にも発症しますので、女性であれば皆さんに発症の可能性がありますので注意が必要です。

Q：「子宮頸がん」の症状にはどのようなものがありますか

A：子宮頸がんは初期では症状がありません。徐々に進行するにつれて、性交後出血をきたすようになり、放置すると不正出血や下腹痛や腰痛などが生じる場合もあります。

Q：「子宮頸がん」の治療方法について教えてください

A：子宮がん検診などにより初期のうちに発見されれば、子宮全体を摘出せずに（妊娠できる可能性を残しながら）病変のみを切除して治癒することも可能ですが、一般的には子宮全摘や放射線治療により治療を行うことが多いです。進行している場合は抗がん剤などを用いることもあります。治癒を目指す治療は初期のうちに行うことが原則です。

Q：「子宮頸がん」の予防法はありますか

A：先に述べたように、子宮頸がんの発症にはHPVの感染が原因であることが多いので、HPV感染を予防するワクチン接種することで、予防できるようになりました。ただワクチン接種のみで100%予防することはできませんので、子宮頸がんの検診も同時に行うことで90%以上を予防することができるようになります。

全世界的子宮頸がんの根絶が目指せる時代となってきました。ワクチンを接種していない世代の女性の場合は、1、2年ごとの子宮頸がん検診を受診することで早期発見でき、治癒も期待できます。詳しくお知りになりたい方は産婦人科医に相談してください。

Q：HPVワクチンの安全性は？

A：HPVワクチンの安全性については、過去にその副反応としてニュース画像が流れて不安視されたこともありました。我が国以外での同様の報告がほとんどないこと、またその後我が国でも詳細な検討が行われて、安全性が確認されたため、政府によるHPVワクチン接種勧奨が再開されました。接種による副反応の相談体制も整備されましたので、対象者は積極的に接種することを強くお勧めいたします。

Q：ワクチンには種類があるようですが、どれを接種すればよいのでしょうか？

A：公費による接種でも最新型の9価ワクチンを使えるようになっておりますので、できるだけ9価ワクチンを接種しましょう。



沖先生から
ひとこと

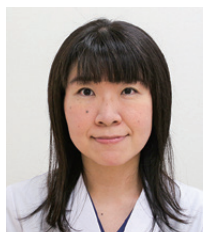
周産期センター
センター長

おき
沖

あきのり
明典

子宮頸がんはワクチン接種を先行している国々で激減していることが証明されています。がん検診を併用することで過去の病気となる日も来ることが予想されています。みなさん、子宮頸がんが過去の病気となるように積極的に予防接種とがん検診を行いましょう。

ドクター紹介



消化器外科
部長

ほしかわ まゆみ
星川 真有美

赴任してもうすぐ3年、肝胆脾外科領域に入門して約10年。消化器外科を専門として診療を行っています。

初めての茨城で暑さ寒さの抑揚に驚くと共に、日常生活でも緩急が大切だと実感するようになりました。学生時代のダンス、テニスを経て、今は原点回帰、音楽に癒されています。

私たちは医療職というプロとして毎日病院で働いていますが、患者さんにとっては一度きりの手術、不安の大きい入院生活であるという事実に、日々謙虚に寄り添えるように。的確な技術とコミュニケーション力のあるスタッフであるように、努めたいと思います。



放射線診断科・IVR
医長

えのきど みどり
榎戸 翠

桜川市（旧岩瀬）出身で聖路加国際病院の勤務を経て2017年に当院に赴任しました。3姉妹を育てながら家族、同僚に支えられて診療に従事しています。

専門はIVR（画像下治療）で、局所麻酔で行う体の負担が少ない治療です。県内で唯一施行している腎癌凍結治療や子宮筋腫動脈塞栓術など様々な疾患の治療に尽力しています。画像診断分野では画像検査のほとんどすべてに読影レポートを作成し、特に導入している施設が少ないPET/CTで病気の早期発見や正確な広がりの評価をして治療に役立てています。遠隔読影などで県内他病院の支援もしています。茨城の医療に貢献し地域の皆様に愛される医師を目指しています。IVRのご相談の際はご連絡ください。

● 当院で活躍する認定看護師 ●

感染管理認定看護師

みやかわ なおみ
宮川 尚美

感染管理認定看護師16年目で感染制御室専従です。昨年度は看護師特定行為研修を修了しました。患者さんと職員の他、病院に訪れる全ての方が感染から守られるよう、感染対策チームの一員として、教育・指導や現場確認、医療関連感染の発生の監視、病院環境改善のファシリテーターなどを行っています。また、院内外問わず感染対策に関する相談に応じています。相談者の話をよく聞いて問題の本質を見極め、患者さんと医療従事者にとって最善の対策が講じられるよう、日々努めています。



地域連携 だより

地域連携機関の皆さま方には当院の地域連携に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、患者さんにおかれましては常日頃ご支援をいただき、誠にありがとうございます。地域連携だよりのコーナーでは当院の情報をお知らせいたしますので、今後ともよろしくお願いいたします。

各診療科のご紹介



消化器外科

消化器外科 部長

きょうでん ゆうすけ
京田 有介 (写真前列中央)

当院は1995年4月に肝、胆嚢、膵、肺などの難治性癌に対する高度専門医療を行うことを目的に、全国で初めて分散型がんセンターとして、既存の総合病院に併設される形で設置されました。その目的は、「県民が身近な所で適切な診療や高度専門的な治療が受けられる医療体制の確立を目指して、がん専門医療施設の整備に必要なことを定める」と記載されており、その精神に沿ったものです。

当科では過去10年間で年間650～900例の手術を行い、そのうち300～430例が悪性腫瘍切除例です。現在“根治性、安全性を損なわないならば、できる限り低侵襲で”をモットーとし、積極的に腹腔鏡下手術、ロボット支援下手術なども行っています。

令和4年度は腹腔鏡下で大腸手術135例、胃手術24例、肝切除12例を行い、ロボット支援下手術では県内初となる膵体尾部切除2例の他、直腸癌手術48例、結腸癌手術1例、を施行しました。また鼠径ヘルニアに対して単孔式（傷が一か所）の腹腔鏡下手術を開始しております。

術式については、早期癌に対する定型の手術から進行癌に対する血管合併切除再建を伴う高難度手術まで自院内で完結できる体制を有しています。難易度の高い腹腔鏡手術などは必要に応じて外部から講師を招聘し、安全と質を担保しています。

また、外科専門研修プログラムの基幹施設であり、東京大学、杏林大学、筑波大学、防衛医科大学校の外科専門プログラムと連携し、毎年2～4名の外科専攻医を受け入れています。現在、内視鏡外科技術認定医3名、肝胆膵外科高度技能専門医2名が在籍しており、資格取得への指導体制も整っています。スタッフは各専門臓器を持ちつつ、医局や出身大学の垣根を越えて、風通しの良い雰囲気の仕事ができるように気を配っています。近年話題となっている女性外科医が活躍できるような働きやすい環境づくりや働き方改革などへも柔軟に対応しています。

今後も、患者の希望に対して「ノー！」と言わない診療体制をさらに発展充実させていく予定です。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

—第12回—

「急増するロボット支援手術」

茨城県立中央病院
茨城県地域がんセンター

しま ずい
病院長 島居

とおる
徹



ロボット支援手術は2012年に日本で初めて前立腺がんを対象に保険収載され、10年以上が経過しました。わが国で500台以上の手術支援ロボットが導入されており、ダヴィンチ以外の機器も使用され始めています。保険適応の術式もがんの手術を中心に30種類以上が収載され、件数も急増しています。ロボットを扱う診療科も泌尿器科、婦人科、消化器外科、呼吸器外科と多様となっております。

表のとおり保険改訂のたびに適応手術が拡大していますが、各領域で普及度は若干異なっています。もっともロボット支援手術が導入されているのは泌尿器科領域で、最初に適応となった前立腺全摘術は、現在ほとんどがロボット支援手術といって過言でないと思います。前立腺は骨盤の奥にある小さな臓器で切除のみでなく膀胱と尿道の吻合(つなぎ合わせる)という尿路の再建が必要で、この針と糸を使った運針・縫合操作にロボットの優越性があります。2016年に保険収載された小径腎腫瘍に対する腎部分切除術もこの運針・縫合操作が必要でロボット支援手術の恩恵が大きいと考えられる手術です。昨年の改訂で泌尿器科領域の腹腔鏡手術はほぼロボットが適応となり今後もますます普及することが考えられますが、まだコスト面の課題は残されています。2018年以降に保険収

載された泌尿器科以外の領域では、消化器外科領域の胃、大腸、直腸に対する手術件数が増加しており、肝臓がん、膵臓がん等に対してはまだそれ程増えていないのが現状です。一方、婦人科領域では子宮の良性腫瘍、早期のがんなどに対する手術が適応となっており、対象疾患の割合では悪性腫瘍より良性の疾患の方が多い状況ですが、将来的には腹腔鏡手術のほとんどがロボット支援手術になる可能性がいられています。

さて、茨城県と当院の現状ですが、茨城県では2023年6月現在、8施設で9台が稼働しています。ロボットの導入時期に応じて、実施可能な手術さらに保険適応で行える手術について施設間差があるのが現状ですが、年々その較差は埋まってくると思われます。茨城県立中央病院では、2014年にロボットを導入し、本年1月に機器を更新いたしました。新機種導入後の5ヶ月間で70件以上と件数は急増しており、新型コロナウイルスも5類に分類され感染対策が緩和される今年度は150件を超える見込みです。それに伴い手術待ち期間も長期化しつつあり、治療をお待たせする場合がありますが、安全に配慮した上で最新かつ高度の手術治療を提供していく所存ですので、皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。

表 ロボット支援手術 保険収載の推移

保険収載年	術 式	診療科
2012	●前立腺悪性腫瘍手術	泌尿器科
2016	●腎悪性腫瘍手術	泌尿器科
2018	●胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術 ●胸腔鏡下縦隔良性腫瘍手術 ○胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術	呼吸器外科
	胸腔鏡下弁形成術	心臓外科
	腹腔鏡下胃切除術 腹腔鏡下噴門側胃切除術 腹腔鏡下胃全摘術 胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術 ●腹腔鏡下直腸切除・切断術	消化器外科
	●腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	泌尿器科
	●腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術 ●腹腔鏡下腔式子宮全摘術	婦人科
2020	○肺悪性腫瘍区域切除術 ●拡大胸腺摘出術	呼吸器外科
	脾頭十二指腸切除術 食道悪性腫瘍手術 ○脾体尾部切除術	消化器外科
	仙骨腔固定術	婦人科・泌尿器科
	●腎盂尿管吻合術	泌尿器科
2022	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術 鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	耳鼻咽喉科
	腹腔鏡下総胆管拡張症手術 腹腔鏡下肝切除術 ○腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術 腹腔鏡下噴門側胃切除術 腹腔鏡下胃全摘術 腹腔鏡下胃切除術	消化器外科
	○腹腔鏡下副腎摘出術 ○腹腔鏡下副腎髓質腫瘍摘出術 ●腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術	泌尿器科

●当院で保険診療で実施できる術式 ○実施しているが保険診療外の術式

マイナ受付

対応しています

医療機関や薬局で、保険証の代わりに
マイナンバーカードを使う新たな方法。
それが「マイナ受付」です。



マイナンバーカードが
保険証として使えます。

マイナンバーカードを保険証として使うと

POINT 01

より良い医療が可能に！



初めての医療機関等でも、薬剤情報等の閲覧機能を使えば、今までに使った薬の情報が共有でき、より適切な医療が受けられるようになります。 ※閲覧できるのは、医師・歯科医師・薬剤師等有資格者のみです

POINT 02



手続きなしで限度額以上の一時的な支払が不要に！

限度額適用認定証等がなくても、高額療養費制度における限度額を超える支払が免除されます。

このステッカーが目印！



事前に登録するだけで利用できます！



詳しくは

マイナポータル



茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター

〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121

ホームページ <https://www.hospital.pref.ibaraki.jp/chuo/>

